第2部：最新のソフトウェア事例4

「PLMconsole」の特徴・機能と効果的な活用提案

PLMジャパン　柏木　守孝*、嘉茂　雄史**
*かしわぎ　もりたか：事業統括本部　本部長、**かも　ゆうじ：ソリューション本部

はじめに

当社は、設立20年を迎え、社名のごとくPLM専業ベンダーとして事業を展開してきた。当初は、各種グローバルPLM製品を用いて、主に自動車部品業界でのPLMシステム構築に携わった。ご相談の中には、PDM/PLMにより全体最適を目指すも、製品設計部門内やわずかな関係部門に閉じられた利用にとどまるケースも多く見られた。背景として、「高額な維持運用コストにより利用者を増やすことができない」、「複雑なパッケージ機能と各種既存システムとの役割分担・連携ができず、適用範囲が限定的となり利用率と効果が上がらない」といったものであった。そうした声をかなえるために、独自のPLMソリューション「PLMconsole」を2010年にリリースした。

PLMconsoleの開発コンセプト・特徴・構成

1. 開発コンセプト

図1は、顧客の期待に対して、スクラッチでも

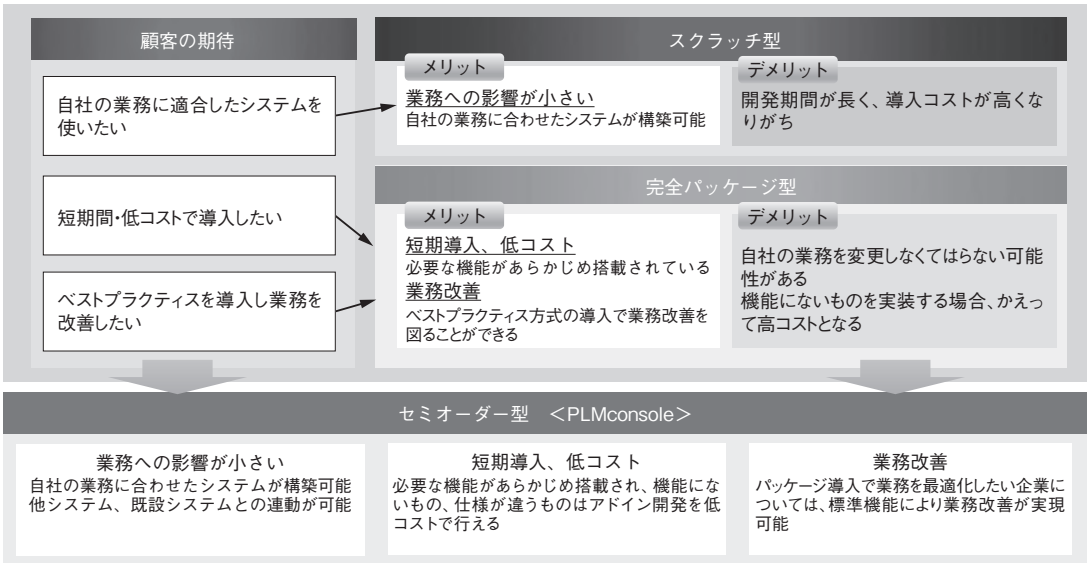

図1　PLMconsoleの開発コンセプト